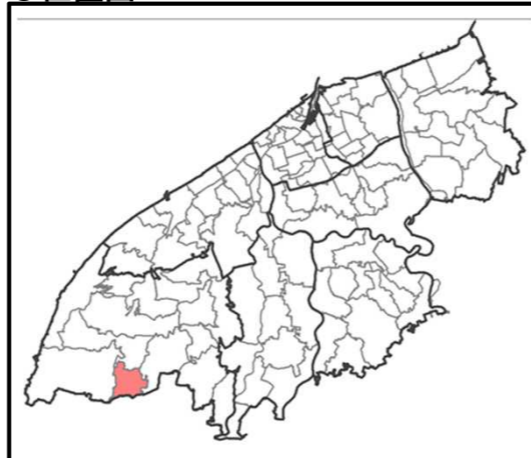


## 様式1 人口、建物、避難所等の施設、災害危険性の評価

## ●住所名称

高橋		
津雲田		
富岡		
原		
和納		
和納1～3丁目		

## ●位置図

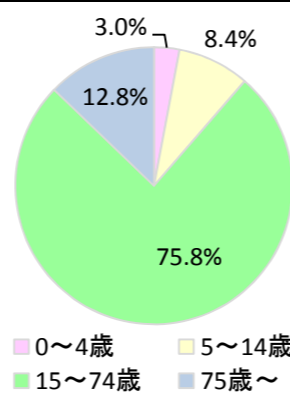


## ●施設・団体

市役所・区役所等	—	
警察・消防	和納駐在所	
消防団	西蒲方面隊 岩室分団	
水防倉庫	—	
一時避難場所	わなみ農村公園	
広域避難場所	—	
主 利 な 用 要 施 配 設 慮 者	幼稚園・ 保育園	和納保育園
	高齢者 福祉施設	—
	障がい者 福祉施設	—

## ●人口

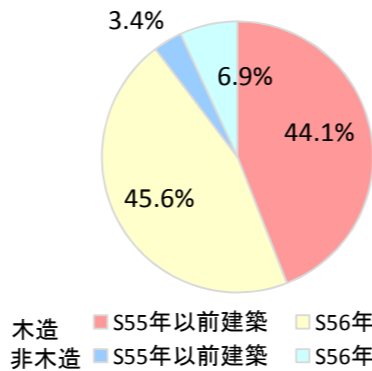
項目	数	地区の割合	市の割合
総人口	4,655人		
0～4歳	138人	3.0%	4.0%
5～14歳	391人	8.4%	8.5%
15～74歳	3,529人	75.8%	74.6%
75歳～	597人	12.8%	12.9%
65歳以上人口	1,276人	27.4%	26.0%
世帯数	1,582世帯		
一世帯あたり人口	2.9人/世帯		2.5人/世帯
人口密度	746人/km <sup>2</sup>		1,108人/km <sup>2</sup>
昼間人口	3,285人	夜間の70.6%	



## ●建物関連指標

建物種別	建築年	棟数	地区の割合	市の割合
木造	S55年以前建築	1,242棟	44.1%	44.2%
	S56年以降建築	1,286棟	45.6%	46.7%
	計	2,528棟	89.7%	90.9%
非木造	S55年以前建築	97棟	3.4%	3.4%
	S56年以降建築	195棟	6.9%	5.7%
	計	292棟	10.3%	9.1%
S56年以降建築物		1,481棟	52.5%	52.4%

S55年以前: 主に旧耐震 S56年以降: 主に新耐震  
※集計時に端数処理をしたため、合計値があわないことがあります。



## ●地区内の避難所・津波避難ビルなど

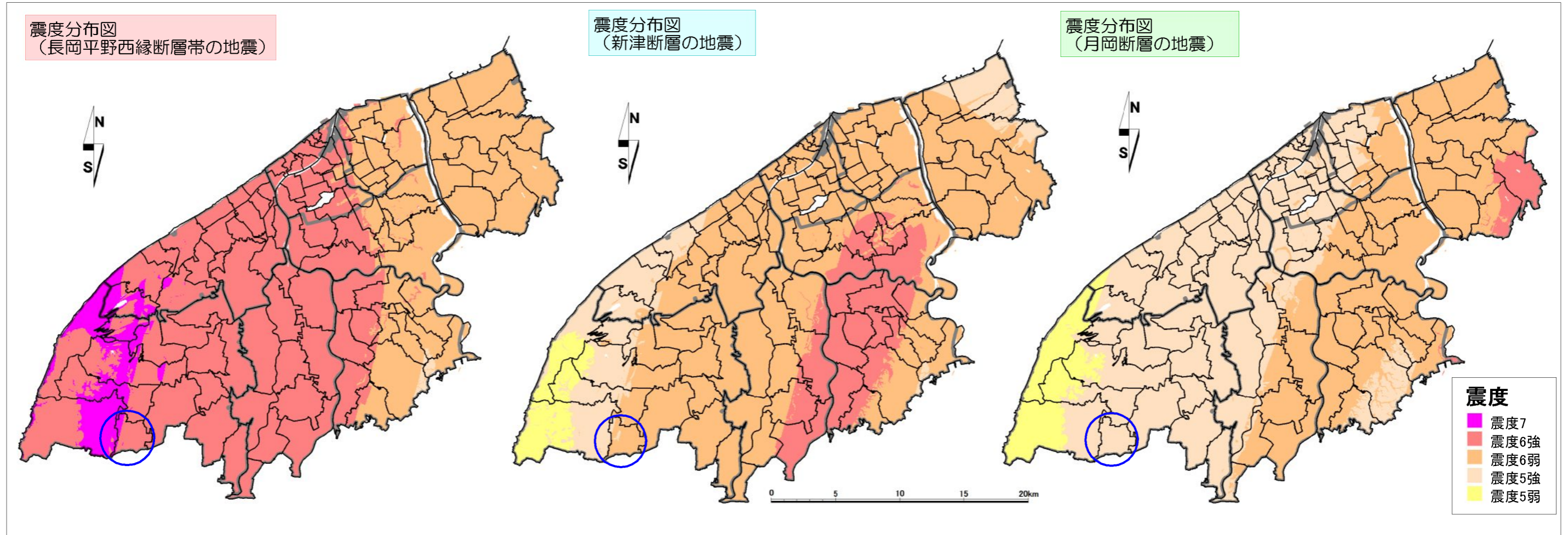
施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]和納小学校	5.3	3	○	—	全階可	—
[ヒ]和納保育園	5.3	1	○	—	×	—
[ヒ]岩室農村環境改善センター	6.9	1	○	—	全階可	—

## ●地区外の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]岩室中学校	8.2	2	○	—	全階可	—
[ヒ]岩室体育館	7.6	2	○	—	2階以上	—
[ヒ]岩室地区公民館	7.3	3	○	—	2階以上	—

## ●災害危険性の評価

津波	地震	地区の大部分が軟らかい地盤上に分布するため、大きい地震の時には、強い揺れや液状化の可能性がある。特に、かつて水田として利用されていた地域では液状化の危険性は高い。津波の浸水は想定されていない。
土砂	水害	信濃川下流の洪水、大河津分水路の洪水及び新川・大通川流域の洪水によって、浸水の可能性がある。特に、大河津分水路、新川・大通川の洪水では、地区東部を中心に広い範囲で浸水の可能性がある。



	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模: モーメント マグニチュード	7.46 (気象庁マグニチュード 7.9に相当)	6.45 (気象庁マグニチュード 6.7に相当)	6.76 (気象庁マグニチュード 7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年  断層の活動性 3m/千年程度	明確な活動性は明らか になっていない。  月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	平均活動間隔 7,500 年以上  断層の活動性 0.4m/千年程度

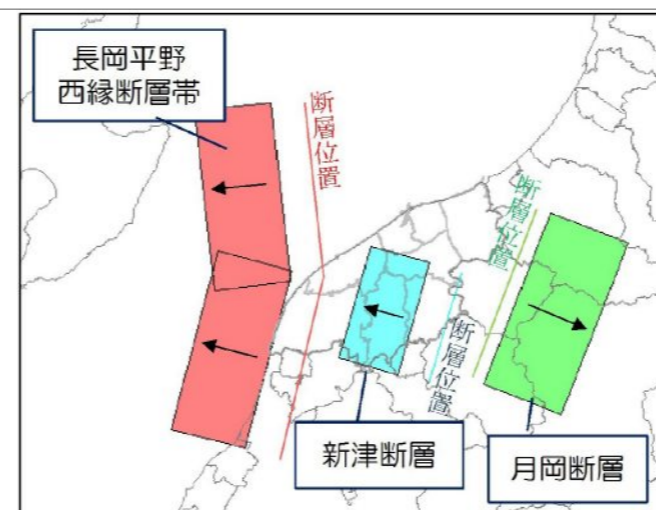
※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。

【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】

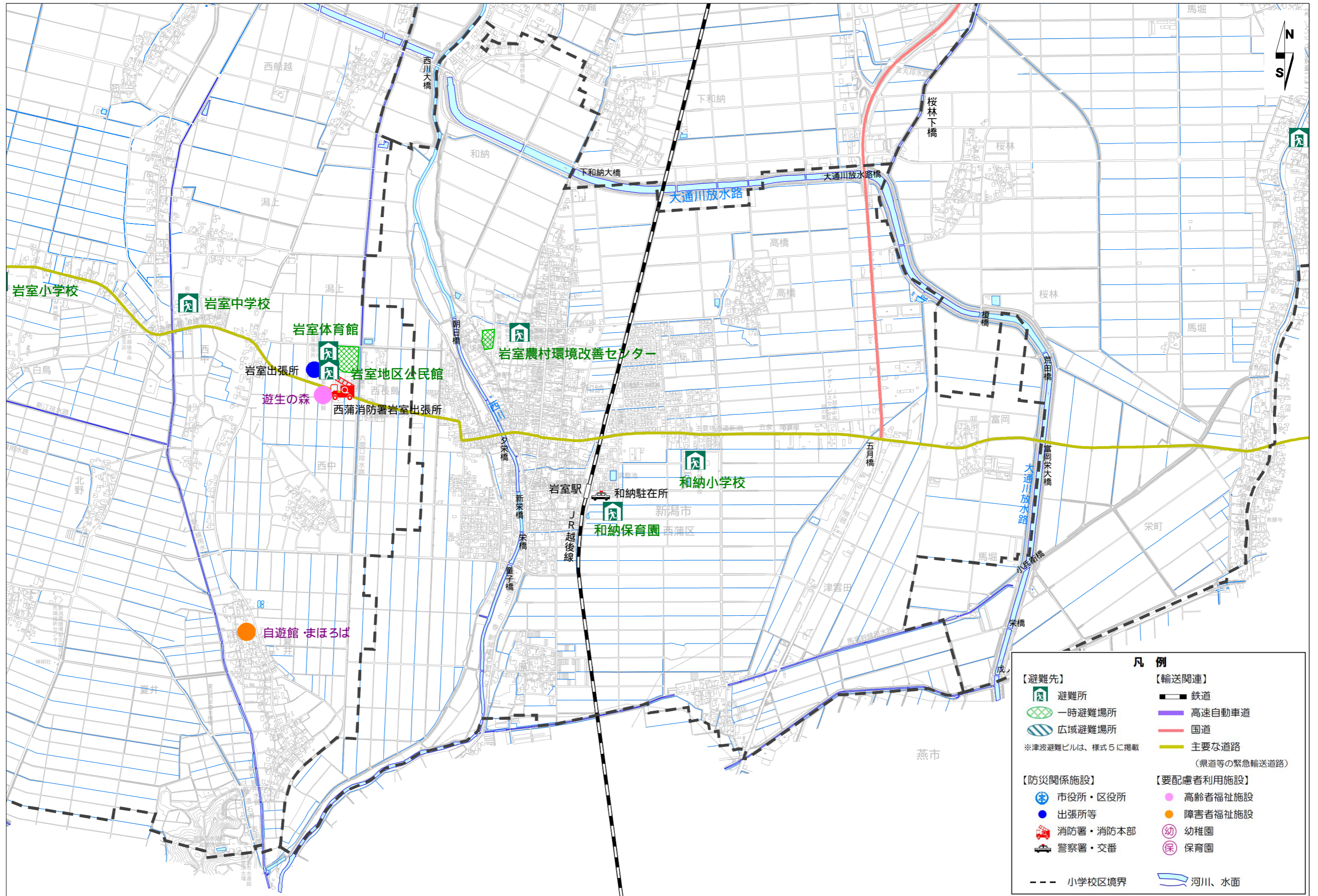
過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>

モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。

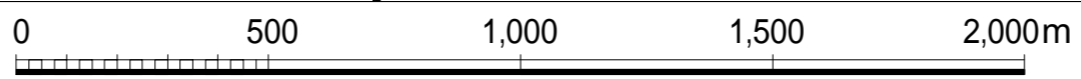


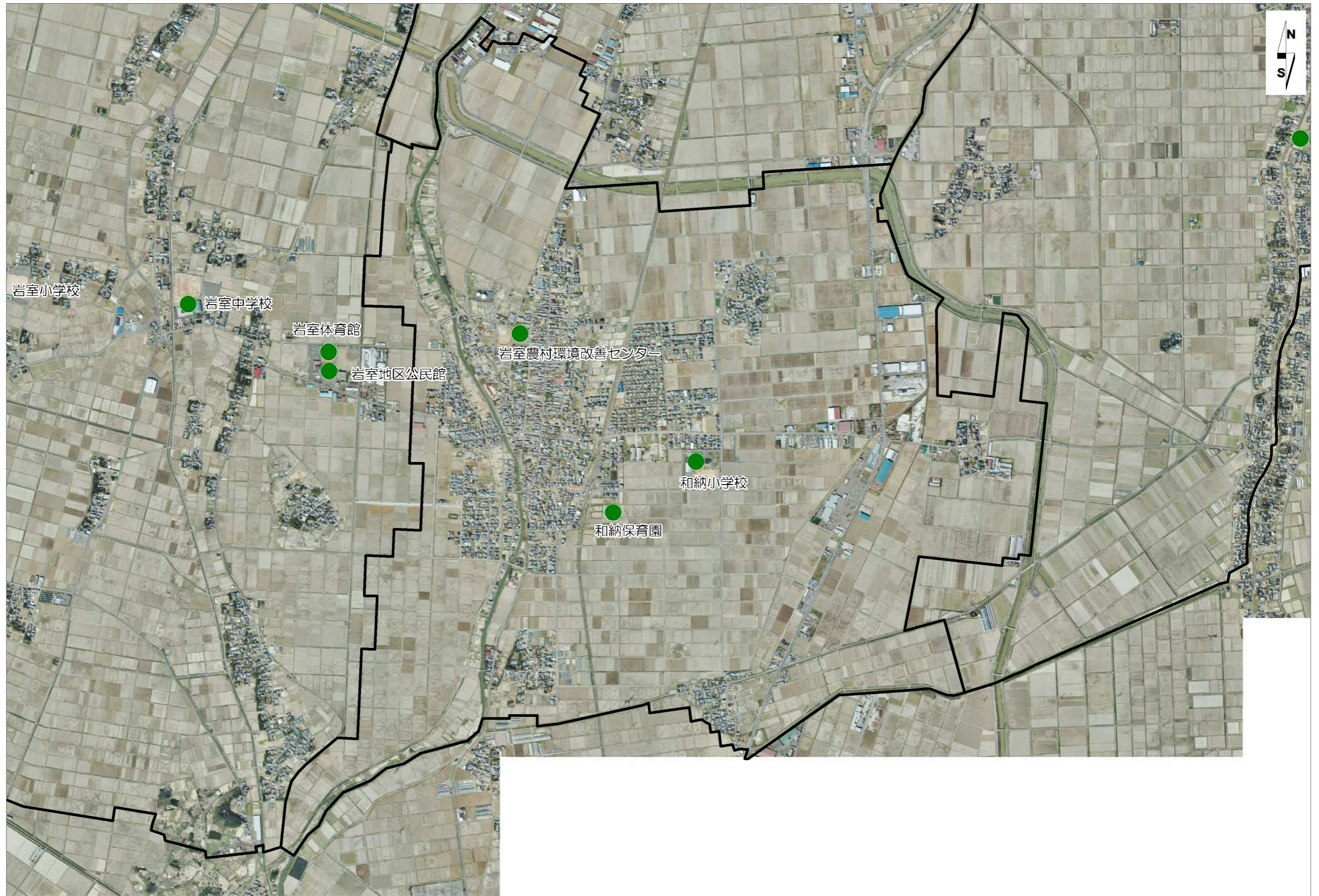
← は、断層の傾きを示しています。

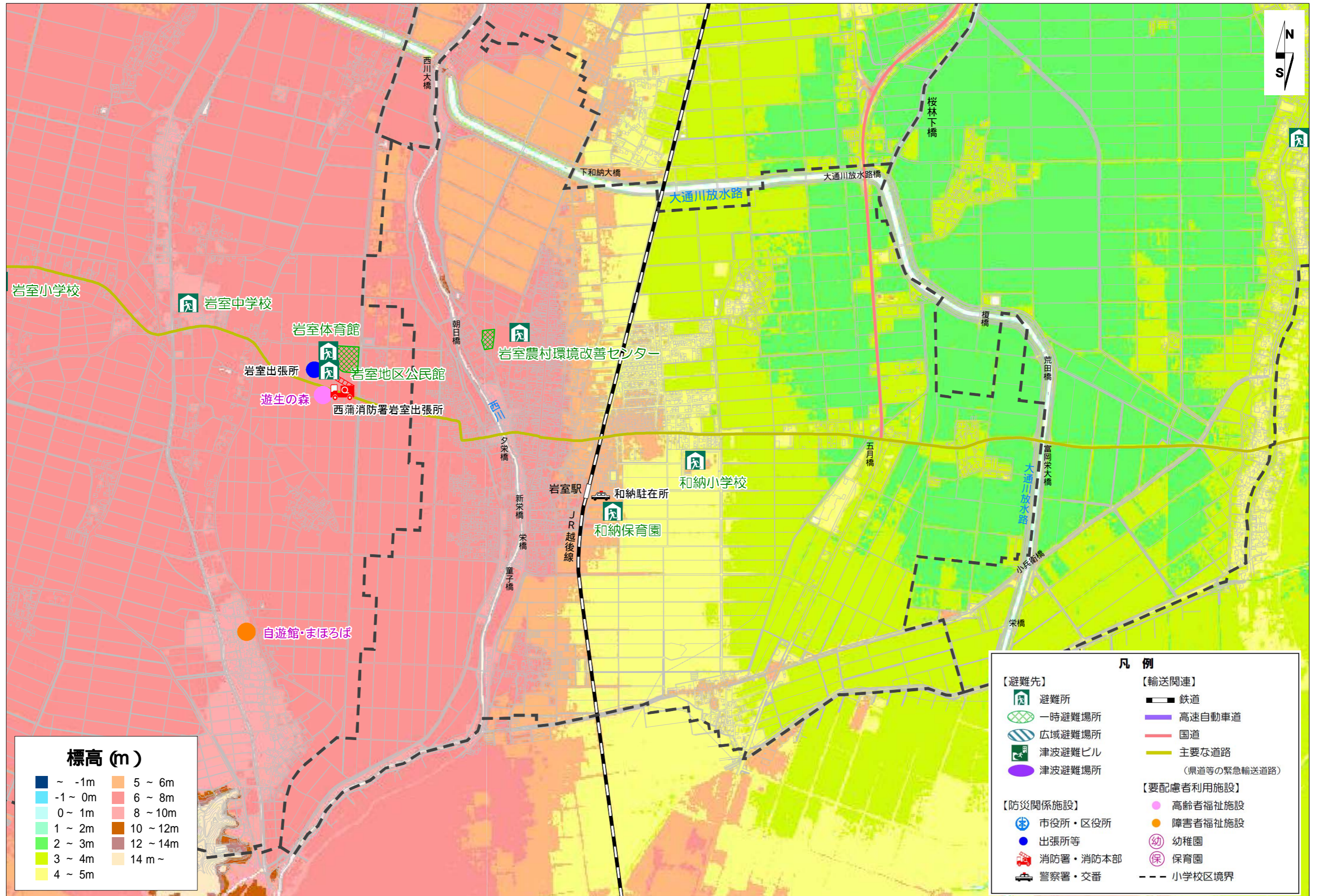


凡例	
<b>【避難先】</b>	<b>【輸送関連】</b>
避難所	鉄道
一時避難場所	高速自動車道
広域避難場所	国道
※津波避難ビルは、様式5に掲載	
<b>【防災関係施設】</b>	<b>【要配慮者利用施設】</b>
市役所・区役所	高齢者福祉施設
出張所等	障害者福祉施設
消防署・消防本部	幼稚園
警察署・交番	保育園
小学校区境界	河川、水面

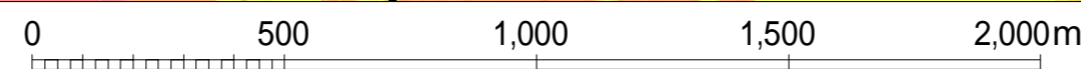
[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年,平成25年,平成26年)





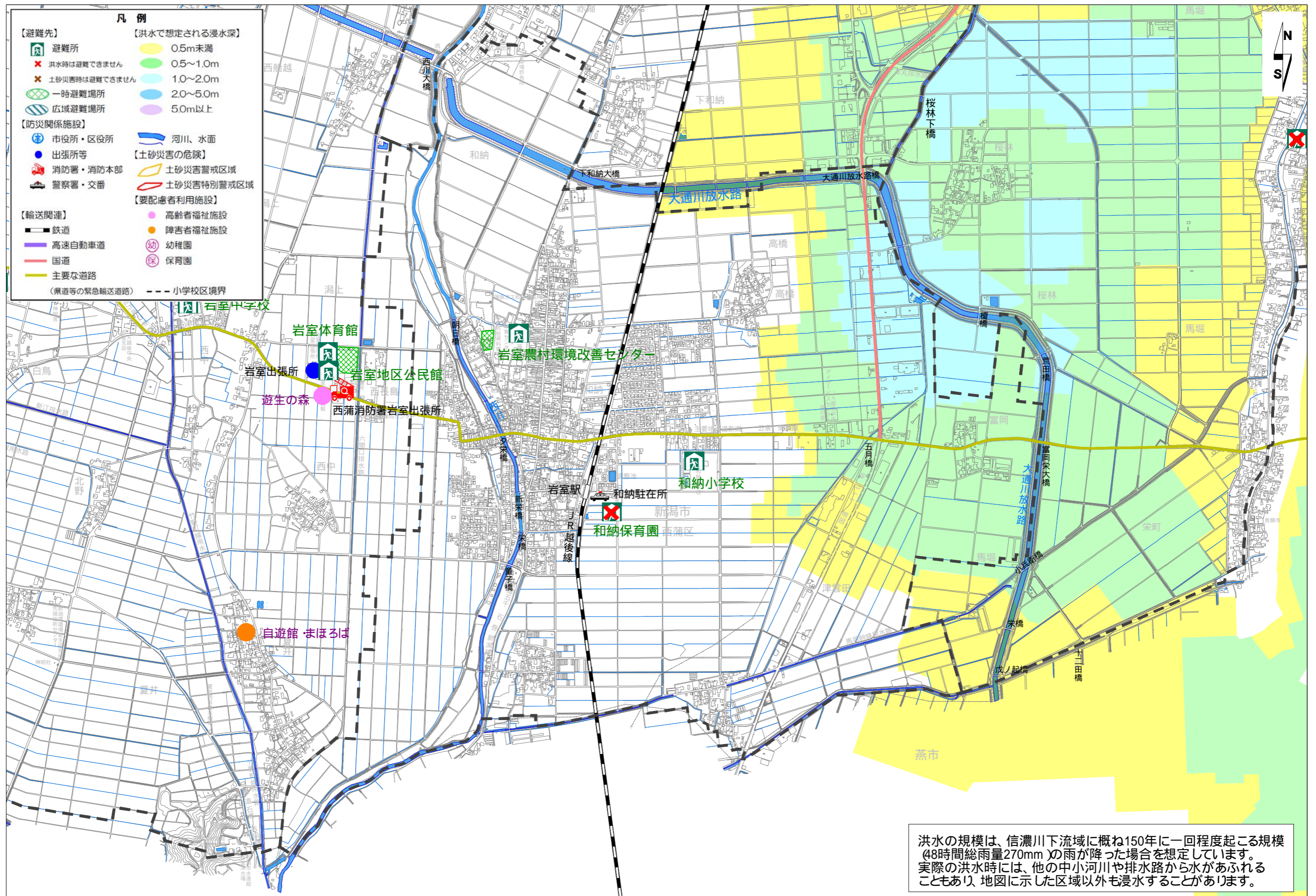


[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年) 5mメッシュDEM (国土地理院, 平成25年)



様式6-1 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（信濃川下流）

和納小学校区

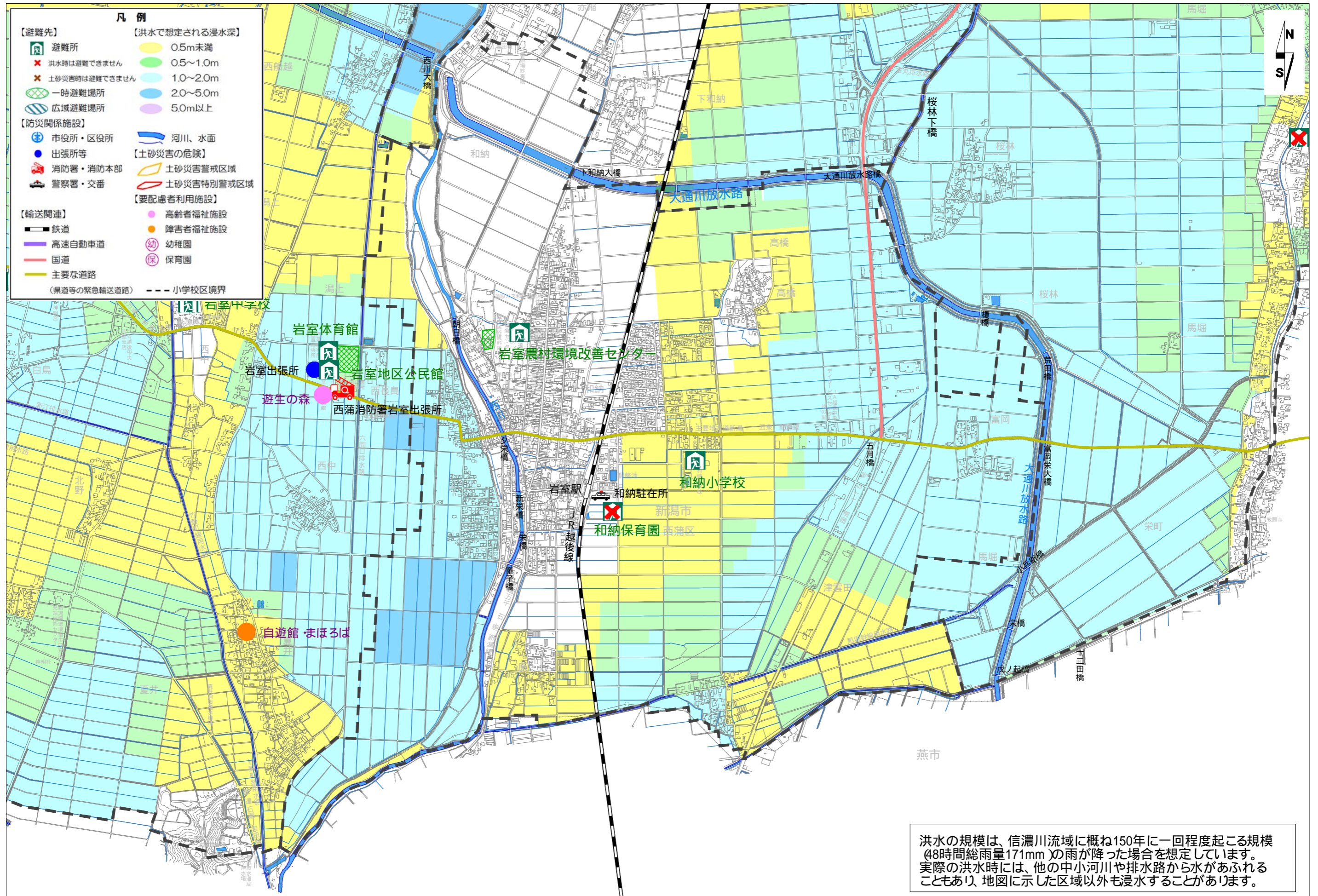


[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)  
信濃川下流浸水想定区域(国土交通省,平成14年4月30日)

0 500 1,000 1,500 2,000m

様式6-2 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（大河津分水路）

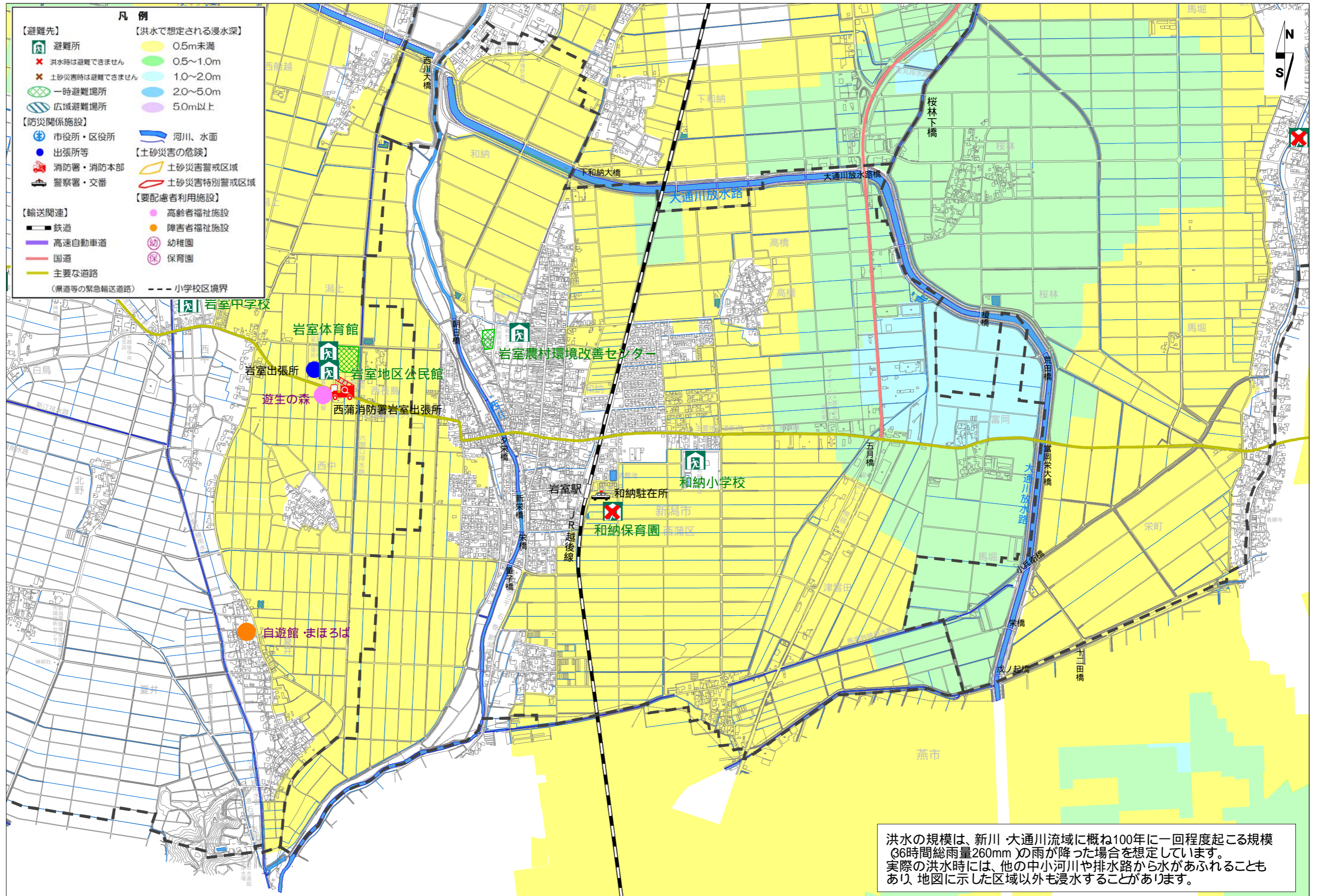
和納小学校区



[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年,平成25年,平成26年)  
大河津分水路浸水想定区域 (国土交通省,平成14年4月30日)

0 500 1,000 1,500 2,000m

様式6-3 風水害(洪水・土砂災害)対策地図(新川・大通川・広通川・西山川・大通川放水路)



[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)  
新川・大通川・広通川・西山川・大通川放水路浸水想定区域(新潟県,平成20年2月26日)

0 500 1,000 1,500 2,000m